能登半島を襲った千年に一度の大地震
災害拠点病院事務部長が実体験から導き出した教訓

2024年1月1日午後4時10分。石川県能登地方でマグニチュード7.6の地震が発生し、石川県の輪島市や志賀町で震度7を観測した。奥能登地区と称される輪島市は市内に通じる道路は限られ、脆弱な交通インフラは自然災害の影響を受けやすく、発災直後から大きな混乱をきたした。元日の夕方だったことから院内にいた医師や職員は少なく、そこに次から次と運ばれてくる負傷者たち。未曾有の災害に立ち合った事務部長が当時の状況を振り返り、今後の手立てを語った。

平穏な元日の夕方に立て続けに起きた地震
病院と連絡がつかない状況に焦燥感が募る

皆が明るく過ごしていた正月 突然の大地震が襲い状況は一変

2024年元日。珍しく穏やかな天気に恵まれたなかで能登の人々は家族や近所の人、帰省した親戚や知人、友人たちと新年を祝っていた。

16時6分、突然大きな揺れに見舞われる。

当時、市立輪島病院の事務部長の職にあった河﨑国幸氏は、病院から50kmほど離れた自宅そばの妻の実家にいた。真っ先に外に飛び出し、携帯電話で病院の状況を確認する。入院患者と職員全員の無事が確認でき、建物や医療機器等にも被害は出ていないようだった。

ひと安心して電話を切った次の瞬間の16時10分、これまでに経験したことがない前後、左右、上下